



第14号
(発行所)

真宗大谷派
松岡山 廣讚寺
中村区城屋敷町3-30
TEL (052) 411-5301
FAX (052) 411-5341

廣讚寺 彼岸会 (釋尼望水)

他人様の言葉の一つ一つは

私には決して生まれてこない尊い言葉

新鮮な活力となる妙なる言葉

今私はここにいる

人間の言葉の温かさにつつまれて

真宗はわが身を映す鏡

人との出会いこれまた鏡

迷いのままのよりどころのない私

自立する勇氣の欠片かけらを失った私は

みなさんと聞法の座にいる

今私は深いご縁に生かされているのだと



おかみそり

聖人のおことば (和讚から)

『眞の知識にあふことは

かたきがなかになほかたし

流轉輪廻のきはなきわ

疑情のさはりにしくぞなき』

私たちは毎日毎日多くの人に接する。八十年の生涯を通じてどれほどの他人様に接したことか。ハイ、さようならといった素通りの人たち。三年もの間同じ釜の飯を食った仲間たち。五年間を一つ学舎に通った学友。あれこれ思い出すままに数えれば切りがない。そしてその方々からいろいろの知識を得たことは事実である。しかしそれは表面の浅い交際にすぎないと思う。一生忘れ得ぬ言葉に出会うことは難しいし、ましてわが一生を決定する師に出会えることは稀まれである。

聖人はこの人との出会いの尊さを歌い上げてみえる。

さらに眞の知識なる指導者に出会えたよろこびを歌ってみえる。それはこの土にたびたびきたらしめ給う念仏の本師である。

極楽さがしの旅

(和美)

十日ほど休みをもらい、孫娘が留学しているドイツに旅した。ドイツは西方にある。阿弥陀経には、極楽は西方にあると書かれてある。

駅まで迎えに来てくれた孫娘を見たとき、地獄で仏に会った感じがした。四日間ドイツを孫娘が案内してくれた。西方のドイツは極楽と思いきや、言葉は分ならず、食べ物はず、私にとって地獄であった。

帰りにさらに西方のフランスとイタリアにも行ったが、

言葉と食事は地獄であった。見る物は教会が主で、念仏は通じない。

帰る飛行機でさらに西方の日本に来た。中部空港に着陸した時、極楽の門が見えた。稲葉地のわが家に着いて、家族や猫に迎えられて、初めて極楽を感じた。極楽はわが家にあった。口から念仏がでた。

ナムアマミダブツ



幕末ごろ流行した瀬戸の黒いカンツボをみつけた。自慢して悪友連中に見せびらかして、さて、どんな花を生けてみようかと庭を徘徊する。

バイモとシャガをみつけて生けてみた。まあまあのところだと自己満足した。さらににびったしはないかと椿の銘花なるイワネシボリに的をしぼった。

ああでもない、こうでもない、一人つぶやきながらバイモに決めた。

花の選択につかれたのか、

心で「一一のはなのなかよりは

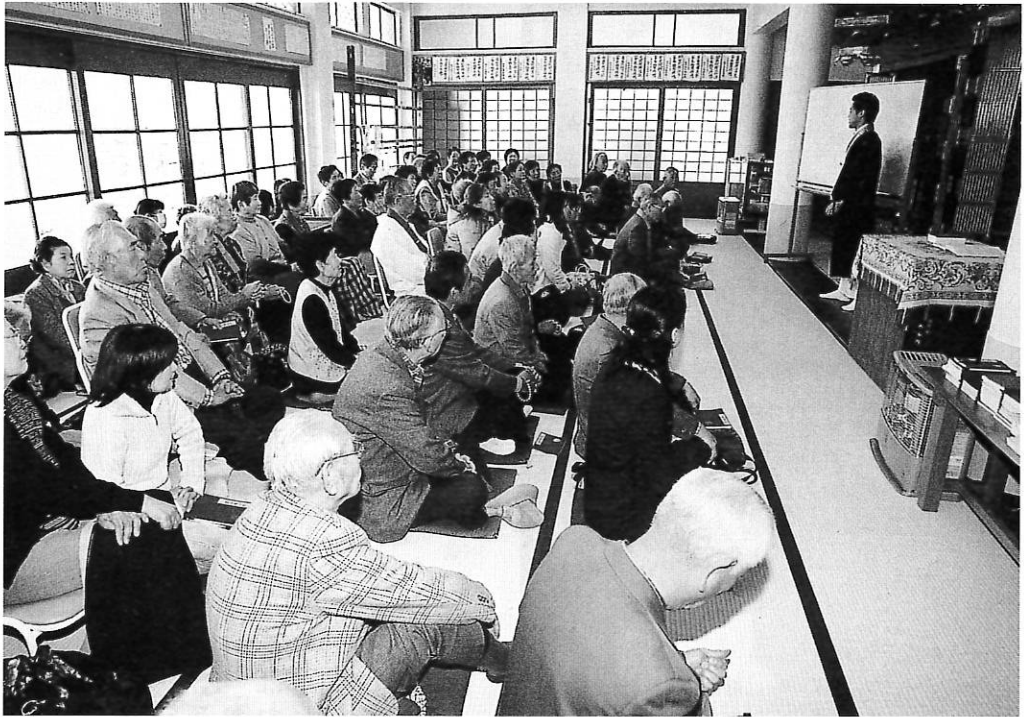
三十六百千億の

光明でらして ほがらかに

いたらぬところは さらになし」

と、そして、匂が一番やと思った。





前田健雄師による説教

※行事予定

五月五日(祝)

復興永代経執行

午前十時より おつとめ おとき

説教 本澄寺 明仁師

午後は特別プログラムとして

有志による詩吟・民謡・舞踊など

廣讚寺座による演劇もあります

五月九日(土) 七時 同朋委員会・例会

十九日(火) 二時～四時 学習会

二十八日(木) 十時 二十八日講・女人講

六月十三日(土) 七時 同朋委員会・例会

十九日(金) 二時～四時 学習会

二十八日(日) 十時 二十八日講・女人講

